

筆山

第72号 / 2022年7月

土佐中・高等学校同窓会
関東支部会報

編集人 / 中平 公美子 (59回)

発行人 / 関東支部幹事長 市川 直介 (53回)

関東支部ホームページ :

<http://www.tosako-kanto.org/>



筆山会新年会に三六士参上!

二〇二二年一月八日(土)、陽光輝く青い空に、今年が良い年になりそうな希望を感じる朝でした。

コロナも、一昨日の大雪も、凍結した道も熱き血潮で乗り越えて、筆山会三六名、代々木倶楽部に結集しました。

万全のコロナ対策のもと、ソーシャルディスタンスで席は離れても寄り添う心、マスクの下から溢れる笑顔。

いつも元気で爽やかな佐々木泰子会長(三三回)の挨拶、森郁夫関東支部長(四一回)の乾杯で笑顔の輪はさらに広がる。浅井伴泰前会長(三〇回)を偲ぶ西内一先輩(三〇回)のスピーチと感謝のスライドショーに和子夫人(三五回)のあいさつ、市川直介幹事長(五三回)から町田憲昭次期幹事長(六七回)へのバトンタッチのお話など、年代を超えて綿々と繋がる絆を感じます。

今年は、土佐校理事長の傍土銃太先輩(四九回)も初参加され、心強い挨拶をされました。又、森健先輩(二三回)、森郁夫先輩、筆者(森美樹)の「森」三兄弟が久しぶりに集合。「森」三兄弟は、二人のお兄様の許可なく私が勝手に名乗っており、この場を借りてお詫びとご許可のお願いを申し上げます。

関東支部の活動や若手活躍のための資金を池田勲夫先輩(三八回)が寄付してくださるというビッグニュースで会場はさらに盛り上がり意気盛ん。

最後に、コロナに対する筆山会からのメッセージを土佐弁で。

「コロナよ、おまん、えらい、きばってええ気になっちゅうけんど、人類をなめたらいかんぜよ!今にみちよれ」 森 美樹(五三回)



アサヒビールを選ばれた理由は。当時はバブル期、売り手市場の就活でした。初めはいろんな企業をターゲットに考えました。もちろん面接が上手くいかないこともありましたが、最終的にアサヒビールを選んだのは、スイパードライを発売したばかりのアサヒは、勢いがあり魅力的に感じたのもありますが、身近な商品を扱える食品業界ならば私の強みを生かせるかと無理せず思えたことが一番です。

お仕事の経験を教えてください。

最初の配属は神戸支店の総務に。阪神淡路大震災時の西宮工場では、災害時の貸付金の手続きなどをしました。先輩方の発想と提案で、携帯電話もない中、安否確認のためにみんなが自転車で動きまわりました。一人では出来ないこともチームなら出来ることや、人の役に立つことが嬉しいと感じました。

30代は、本社の人事で、夜遅くまで仕事をし、成果は上げていたと思います。毎日肩間にしわを寄せ、周りが見えてなかったですが、海外留学の経験を含めて、この時代が今のエクスパティーズ(専門性)につながっていることは事実です。

39歳からは、グループ会社の人事部長・経営企画部長を4年ほど。その後オーストラリアに5年いました。二つの会社では驚くほどの違いを見つけ、多様性とか異なる環境で過ごすことの辛さや楽しさを経験しました。

50代の今は、取締役としていろんな課題と向き合い、やりたいことだらけで、毎日がジェットコースターのような感じです。ジェットコースターは楽しいから乗るものなので、自分のやりたいことをいかに進めるか、後輩の社員のみならず何が残せるかを考え、時間に追われながらも方向性を間違わないように気をつけています。

キャリアはどのようにして築かれましたか。ドリブル方式です。ドリブルしていると進みたい方向に隙間が見えてきて、その隙間に入るとまた次のスペースが見えてくる。徐々にゴールが見える場所に近づいてきました。3年間で出来るように、または見えるようにとステップで進んできました。時代性や環境によっても違

うかもしれませんが、ステップごとにやりたいことが意味づけられていること。何をやるにしろ、しっかりと意味づけられれば、自己実現につながると思います。

意見が分かれている時は。

まず、異なる意見もその通りだと聞き入れて、逃げずに正対してみるのが大切です。上司との付き合い方でも同じだと思います。目の前のことに集中し、真正面をみて物事をクリアにすること。すると調整ではなく、真の原因が見えてきて正しい提案ができます。この積み重ねは裏切らないと思います。

それでも判断が難しい時は、長い縦の時間軸で考え、その判断がいい人生につながるのかを考えてみます。また横に広げて、家族や友達に聞いてみるのも大切です。リバースメンタリングもいいと思います。若い世代へのメッセージは娘に相談します。辛辣な意見が帰ってくることもありますが、そんな関係がいいなと感じています。

取締役としてやりたいことは。

会社の長期戦略を見直すにあたって、『2050年のアサヒグループを考える会議』を、海外の社員も含め10人ほどの若手社員と4セッション行いました。私も若手の人材のすばらしさを実感し、素直に嬉しかったです。参加した社員は自信に繋がる良い機会であったと思います。今置かれた環境を過去と比べて悲観している社員の気持ちとエネルギーを解放してあげたいです。女性の活躍を含め、もっと社員の気持ちやエネルギーを生かしてあげたいです。アサヒにいてよかったと思える会社を作りたいにつきます。退職した後にはありがたくなってくれる仕事を成し遂げたいです。

また、社会のために、未来の地球の未来を思うて行動することが重要です。そう言う世界を目指そう、実現させようという立場にいることを幸せに思います。嗜好品を販売するグループとして、日本発のグローバル企業でありたいです。

(次頁へ)

第8回 谷村圭造さん(59回)

アサヒグループホールディングス 取締役兼執行役員CHRO



PROFILE

1984年3月土佐高校卒業
1989年3月神戸大学卒業
1989年4月アサヒビール入社
2016年4月理事・人事部門ゼネラルマネジャー
2017年3月執行役員・人事部門ゼネラルマネジャー等
2019年3月取締役兼執行役員
2020年3月当社取締役兼執行役員 CHRO兼務
他に人事・管理総務・法務・監査・サステナビリティなどガバナンス領域を担当(現在に至る)

今回は、81回から90回までの若手社会人と現役大学生(95回)が谷村圭造さんから就職活動や時間の使い方などについてのWEBインタビューでした。次号の訪問インタビューをしてみたいという方を募集しています。

アサヒならではのグローバル企業を提示することが夢です。海外の人と付き合うほどに、日本のすばらしさを感じます。

就活で人事が見ているポイントとは。

何がしたくてこの会社を選んだのかを観ます。就職のために実体のないストーリーを作った仮に入社したとしても、会社に入って矛盾を感じると思うのです。ビールが嫌いだとか、飲む場が嫌いな人や飲む場がなくなれば良いと考えられる人には無理して入って欲しいとは思いません。でも多様な人を採用したいのです。100人採用するならば、多様な人材を求めています。ビール業界だけを志望している人だけでは会社は成長しませんし、面白い会社にはなりません。

人事のお仕事のやりがいとはどこですか。

人の成長を感じられること。いい仕事をしてもらうこと、働く環境を作ること褒められたり、評価されたりと成果が得られることでしょうか。(逆もありですが)望まない地域への異動を伝えることはつらいですが、異動先で活躍されて高いポジションに帰ってきてくれた時は嬉しかったですね。今は、人事ではなく人材、人間の大切さが注目されています。サステイナビリティーやSDGsなども、人を起点に物事を考えられる社会人であることが重要だと考えられています。いろんな意見を聞くことが立ったりするのですが、D&I(多様性を認め、受け入れて生かすこと)を担当して、人の意見を聞くことは、成長への近道だと実感出ています。

自分らしく人と接するためには。

自分の強みでキャラ設定する事は一つの方法かもしれないですね。人の話を聞いてくれる人、恥ずかしげもなく何でも聞く人。いつも本を読んでいる人。何かやってくれる人など、自分自身をキャラ設定していく。例えば、人の嫌がることは言わないという強みが私のキャラ設定です。カチンとくることを言われても、『嫌がることを言わない谷村』だから言ってくれたと思うと怒りを抑えられるし、抑えることで強みはさらに強化していくのです。ずっと続けられることは本当の強みです。鳥・魚・虫の三つの目

で自分の強みを探してみるというですね。自分を客観視すると、周りの人がどのように感じているかわかります。どのように感じさせようとしているかわかります。どのようにインパクトを与えて周りを動かすかを考えると、強みは生かせると考えます。

組織作りの難しさを感じたら。

まず一番したいことを言う。転職や社内の異動でも同じです。理想と現実の違いは少なからずあると思います。満足の就職活動を目指し過ぎると辛いので、ギャップのスペースを前提で入社して埋めていくのも一つの方法です。

女性の働き方に制限を感じます。

制度はすぐに変えられませんが、構造的に変えるには時間はかかると思うのです。下駄を履かせるという言葉がありますが、能力があると思ったり、男女問わずチャンスを与える。会社側も下駄を履かせて転ぶ人間には履かせません。仕事の仕方や発言の仕方煙たがられるとしたら、男女に違いはないと思いますよ。

仕事や自分に向き合う時間の作り方は。

仕事を楽しんでいると感じるときほど時間に追われて時間が作れないかもしれません。インプット(自分を見つめなおす時間)と、アウトプット(やりたいこと)を長期と中期・短期で書き出してみます。私は読みたい本は、すぐ購入して積読しています。時間を作ろうと考えるので、インプットとアウトプットをどれだけ出来たかをゆるく考えてみてはどうでしょう。仲間との食事も、本を読んでも、だからだとしても休養はインプットの時間と考えると時間を流すことはなくなりません。

毎日3時間を目標にインプット時間を持つことは、仕事のノリやリフレッシュに役立っているのかわかります。予定通りにいかないのは当たり前と考える人、ガチガチに計画をこなす人それぞれだと思います。アウトプットの場を意識せず、まずはインプットに時間を使うこと。年を取ればアウトプットの場所はあらずと増えてくるものです。

就職活動生へのメッセージ

自分らしさを大切に。自分の思う100%通りにいかないこともあるでしょうが、後悔しない就職活動をするべきです。悔しいのと後悔は違います。ストレッチをしても背伸びや嘘はつかないこと。見過ごしがちですが、明るさや誠実さはかけがえのないものです。

何が伝えたいのかわからないようでは困ります。相手の立場に立ち、分かってもらうための話ができること。論理的に気持ちを込めて話すこと。結論の後で意味付けをはっきり話すべきです。

ゆるぎない志望動機を作るには、まずフラットに一から考えることが大事です。何のためにその仕事に就きたいのかを軸に志望動機を考えます。軸を作るプロセスが大事なのです。子供の時から自分の強みや喜びから考え、意味づけをして、それを言語化することが大切です。意味づけがあれば、動機や方向性についての確かなアドバイスを受けられるし、軸をずれた時も軌道修正ができます。

インタビューを終えて

わからないことがあった時に、「娘さんに相談する」というのが印象的でした。大企業の役員になられても、威張ることなくとても優しく、謙虚なお人柄に惹かれました。私自身、大学3年生になりそろそろ就職活動を始める段階で右も左もわからず、少し億劫な気持ちになっていました。しかし、日本の大企業の役員である谷村さんのお話をお聞きして、谷村さんのような上司の元で働ける環境は魅力的だなと思い、就職活動と自分の未来に対してワクワクとした気持ちを持つことができました。

藤村佳穂(九五回)

谷村さんの考え方を伺い、社会人1年目、時間に追われて心に余裕がない悩みがとても軽くなりました。①時間を無理に作ることをせず、インプットとアウトプットしたことを書き出す。②短・中・長期的に取り組むのか、目安の時間軸を把握③分類に沿って順に進める落ち着いた判断。が大切だと知りました。今後は、時間がないなど必要以上に焦らず、今の自分を認め、元氣よく社会人1年目、頑張っていきたいと思えます。

大崎早恵(九〇回)

谷村さんは一貫して、背伸びをして自分を偽らないことと自己向き合う大切さをお話されました。特に印象的だったのは、自身を組織で生かす方法として、自分の特徴を基に組織の中で、キャラ設定していくことです。無理をしないから長く続けられる、継続するからステップバイステップで強みになるということです。日々できていないことに目が向きがちですが、観点を広げ、中長期の目標をもつことの大切さを教わりました。

佐藤彰記(八一回)

自分が特に印象に残っていたのは、女性がキャリアを組織内で築く上で自分が感じていた通り、人事も悩んでいることがよくわかりました。結婚や子育てなどライフサイクルに合わせたキャリアプランを築くには数年単位で時間がかかるのは大手企業でも同じと知りました。また、インプット時間を記録することで心の平穏や自己投資を継続することの大切さを再度認識しました。役員になられても若い人の声を聞く姿勢、聞いてくれそうだから話したくなるのは谷村さんご本人の魅力と感じました。

張 相潤(八一回)



1月終わり朝9時前の街中 まだ薄暗くライトが綺麗

オランダ事情 山淵玲子(六三回)

今日も窓から見えるのは、灰色の空。いわゆる『しびった』が連日続く。来る日も来る日も在宅勤務か一人出勤。数日振りに誰かと口をきいたと思ったら英語。「Meは何しにオランダへ？」

そう問いながらクリスマス休暇を迎えようとしていた。土佐校の友達が何の前触れもなく送ってくれる救援物資が心に沁み、これが二〇二〇年の八月に五十過ぎにして初の海外赴任をした私が、最初の冬をオランダで迎えた時の心境である。



この後、私は夜八時以降の外出禁止令付ロックダウンを経験することになる。集まってよい人数は二人まで。食料品店以外は開いていない。勿論これは一番厳しい時で、様々な段階の規制を経て今年四月からは、全面解除となっている。ともあれ、すっかり規制の解けた現在、私が一人だけマスク着用でも変な目で

見られることもアジア人差別を受けることも無い。合理主義と共に個人の自由を重んずる国オランダに感謝である。

ここアムステルダムは、樺太北端とほぼ同じ北緯52度だが、その割には温暖で真冬の最低気温でも零度前後のことが多い。しかし、寒いものは寒い。そして何と言っても冬の短い日照時間と薄暗さ。そのせいか年間を通じて少しでも日が射すと人々は外に出てくる。気温が摂氏10度台ならばコートを着て外のテールブルでビールを飲んでいる。私はいつも「オランダ人ってテントウ虫みたいだね。お日様が出ると集まって日向ぼっこ」と駐在員仲間に言っていた。あにはからんや、一年後、私はテントウ虫の仲間入りをしていた。コートどころか膝掛けまで使うこともある。その位、新鮮な外気とお日様は貴重。勿体ない、外に出ねば！とスイッチが勝手に起動するのである。尤も、体内温度センサーが勝つことも多い。

(次頁へ)



晴れなくてもチャンス！ ダウン着ている人も。ちなみに8月



晴れたらチャンス！



桜はなぜか
日本と同じ
時期に咲く

8月の終わり
1年の2/3は
こんな空模様

2月
運河が凍った



そうして、二度目の今年の冬、私は地元のスケート教室に申し込んだ。しかし、申し込みはしたものの教室へ行くのを当日の朝まで躊躇していた。スケートだけではない、折角の海外暮らし、オランダ（欧州）らしいことを経験してから日本に帰りたいたいイメージだけは思いつやわらせているのに殆ど何一つやれていなかった。



初めての冬、二月に猛烈な寒波で運河が凍った。現地の新聞には連日「今日の氷は何センチ」という見出しが躍る。するとどうだろうか。まだ滑ってはダメ、との警告にも関わらず、どこからともなく、スケート靴を履いたオランダ人がわらわらと湧いてできてその辺の運河で楽しそうに遊んでいる。
あの人たちに交じって、スケートをやってみよう！

こんなに逡巡するのはなぜ？と、自分に問うてみてハタと気付いた。失敗したくない。恥をかきたくない。モノを知らない田舎者だと思われたくない。やっぱり女の人には無理なんだよね、ヤマブチには無理だったね。何かに失敗してそう言われるのが嫌なのだ、と気が付いた。『みともない』自分を見たくない。何たる自意識過剰！ここに来た理由、それは臆病で自意識過剰な自分の真の心持ちに気づくためだったのかも知れない。気付いたところで急に変わるものでもないのだが、限りある駐在生活、一つでも多くのことに挑戦してから故郷に帰ろうと今は日々自分を鼓舞している。肝心のスケートは、オランダ人コーチの名指導で何とか滑れるようになった。次の冬まで滑り方を覚えていたいものだが、来年の自分はどこで何をしているのだろうか。



3年振り開園のキューヘンホフ公園 チューリップの季節だけ営業



一般社団法人
土佐婚倶楽部[®]
TOSAKON CLUB

婚活のお悩みを心を込めてサポート致します
年に数回、合コン等やってます！詳細はHPで

代表理事・東京相談室長 織田祐輔 (45回生)
顧問 梅原 毅 (45回生)
顧問弁護士 浦田理有 (76回生)

URL <http://tosakonclub.com/>

東京相談室 080-5010-5545

〒204-0023 東京都清瀬市竹丘1-17-21

ワーキングママの中学受験体験記

遠藤瑞枝 (67回)

私は大学卒業後、東京で就職、結婚、出産(息子一人)し、平日フルタイムで働いております。今年の春から私の息子が東京の私立男子校に入学することになり、今回、首都圏の中学受験事情や当家の受験体験について執筆する機会をいただきました。ここでは主に塾との関わり方と受験直前期の過ごし方についてお話ししたいと思います。なお、中学受験は目指す学校、住んでいる地域、子どもの個性、親の価値観などによってさまざまなケースがありますので、一事例としてとらえていただければと思います。

初めての中学受験は私にとっても分からないことが多いだろうと予想し、息子は3年生から日能研に通いました。塾に通っていると受験に関する情報が自然と得られることを期待していたのですが、5年生まではそれほどでもなかった、というのが印象です。特に親が受験に際して子どもにどのようにサポートするかは、ブログが一番役に立つ情報源でした。塾では年に数回説明会がありますが、勉強についてはカリキュラムと宿題についての説明以外はテストの解き直しを必ずするようにお話しがある程度でした。ある時インター



ネットを調べていて、都内の私立中受験率の高い区では小学1年生から受験を見据えた算数塾等で勉強している家庭もあり、私が住む埼玉県の中核都市(わりと東京よりです)とはだいぶ受験に対する温度差があることを知りました。そして低学年のうちから受験勉強に対してかなり親がサポートしていることも。

塾の先生には何度か親がどの程度子どもの勉強をフォローするものなのかを尋ねましたが、推奨はしていないようではっきりとした回答はありませんでした。数あるブログを読みながら進学校や大学附属校に行くためには子どもも親も塾任せにせず、計画的に真剣に受験に向き合う必要があることを自覚していきましました。小学生の子どもにとって、スケジュールを立てることは難しく、日々の単元をインプットするのに精一杯で、間違った箇所の復習(テストの点を上げるには必須)に意識を向けられませんか。この点を重点的に親が手伝い、子どもがスムーズに勉強に取りかかれる環境作りが大切なのです。首都圏には有名進学校でなくても魅

力的な学校はたくさんあります。5年生になる前に息子とはどこに目標を置くのかを話し合ったところ、進学校を目指したい、と主張したので志望校にあわせたサポートをすることになりました。私が行ったことは1週間のスケジュール表の作成(朝学習と塾以外の時間の勉強の科目と具体的なテキストの箇所)、テストの解き直しを一緒にすること、間違え直しノートを作成すること、各単元のポイントの解説です。と、偉そうに書いていますが、働いていると土日しか時間を取れず、毎週のテストの解き直しが追いつかないことも多々ありました。この積み重ねが合否を分けるのかな、共働きの中学受験が厳しいと言われる所以かなと考えて息子に申し訳ない気持ちになることもありました。でも子どもは成長するもので、勉強がルーティン化してくると朝学習もテストの解き直しも一人でできるようになってきました。



さて、6年生になると塾の説明会も増えてきますが、心も体も成長段階である子どものメンタルの変化についてよくお話しされていたことが記憶に残っています。コロナ禍における受験ということで、先生方は成績以上に子どもの様子に注意を向けて下さいました。核家族で共働きでは親子ともと接する時間が少ないだけに、塾の先生方に見守っていただける状況はありがたかったです。親も成績にはかり目が行きがちですが、安定した精神状態で本番を迎えることが何よりも大切なのだと気づかされました。

夏には第一志望校と併願校の選定という重大任務が親にのしかかってきます。併願校の選び方、受験日程の組み方について塾から説明を受けて、後は個人面談で具体的な相談をするという流れでした。何度も面談をして微調整していきましました。その際、併願校については特に1月の埼玉校受験の捉え方を教えていただきました。埼玉校は1科目の点数開示があり、合否に関係なく、点数を参考に2月受験までに弱点克服ができること。栄東中学校は合否や点数で自分の位置が分かるので必ず受験することでした。2月校は息子と相談しながら志望校と出題傾向が似ている学校を中心に選び、最終的には8校受験することで落ち着きました。なお、8校受験は平均的な数です。

夏休みから秋には過去問を解くよう塾から指示がありますが、基本的に過去問を解くのは家庭で、点数や進捗状況を管理するのは親の務めとなります。塾の志望校別日曜特訓授業は数年分の過去問を解くだけで出題傾向の近い他校の問題を解いていました。想像していた過去問対策授業ではなく、家庭での過去問の仕方について何も説明もなかったことは驚きでした。

不安になったらネットで検索。個人家庭教師安浪京子さんが運営する「中学受験Cafe」の有料会員になりオンラインセミナーを受講することになりました。このセミナーでは過去問の出題傾向を分析する方法や、合格最低点を超えるために解く問題と捨てる問題を見極める練習方法、実物大の過去問を用意して各校の書式に慣れておくことなど、具体的な説明があり大変役に立ちました。秋以降は公開模試の結果よりも過去問の結果の方が重要になると言われています。12月から2月本番までの間、息子が方向性を見失わずに勉強できたのは安浪セミナーのおかげと言っても過言ではありません。

いよいよ1月、特に共働き家庭には学校を休ませるのが悩ましい問題です。息子は2月まで休みました。主人が秋にけがをして毎在宅勤務となっていたからです。おかげで過去問がはかどり、まさに怪我の功名でした。1月10日から16日まで5日受験し、当日の夜か翌日にネットで合否結果を確認する日々。合格も不合格もありましたが、塾のアドバイスの通り



間違いない直しをして2月受験に備えました。他には早起きの練習を始めました。受験会場に家から行くつもりで5時半に起床して朝食を食べ、電車に乗って3駅行ったら引き返します。家に戻り、試験時間になったら息子は過去問を始め、私はまた電車に乗って出勤。そし

て2月1日の志望校を決定したのはこの時でした。実は息子と私とは2月1日の第一志望校は異なっていて、1月の結果まで決断を延期していたからです。息子の志望校の方が日能研偏差値ではより偏差値が高く、模試では一度も合格圏内に入ったことがありませんでした。都心の学校で倍率が高くなる可能性もあり、私も塾長も別の学校を薦めていました。しかし息子の意思は堅く、その根拠は過去問の結果が合格最低点を超えていることと各教科の出題傾向に苦手意識がないというものでした。この感覚は問題を解いている本人しか分からないもので、人生の選択の場にはかなり重要なファクターだと私も感じました。息子の人生。ここまでがんばって勉強してきたのだから息子自身が納得できる受験にしようと考え、息子の第一志望校を受験することとなりました。1月に通ってもいいと思える学校に合格できたことも大きく、親子とも精神的に楽になり、チャレンジできたと思います。



そして2月1日、第一志望校の結果はなんと合格。受験は運も左右するものですが、少なくとも息子の合格は自分自身を信じる気持ち引き寄せた結果です。1月受験の後2月の受験まで子どもの成績は伸びると言われます。正直私は半信半疑だったのですが、最後まで諦めず勉強を続けていると可能なのだと思いが証明してくれました。

- ①サポート方法の詳細は「かるび勉強部屋 (<https://yuzupa.com/>)」をご覧ください。
- ②「中学受験Cafe」の過去のオンラインセミナーは一部無料で動画を見ることができますし、低学年向けのセミナーも開催されています。
(<https://juken-chugaku.com/category/seminar/>)

UIターンをお手伝いします。 転職・移住

- Uターンしたくなったら
▶▶▶ 私たちにご相談ください。
- Uターン、Iターン希望の方がいたら
▶▶▶ 私たちをご紹介ください。

気軽に
相談してよ♪



一般社団法人 高知県移住促進・ 人材確保センター



高知
本部

厚生労働大臣許可番号
39-ム-300012

高知県、市町村、関係団体の43団体を社員とする一般社団法人です。無料職業紹介所として、高知県の企業と就職・転職希望者のマッチングをはじめ、UIターン希望者向け各種イベント、及び移住の際のサポートを行っています。

☎ 088-855-7748 ✉ jinzai@iju-jinzai.kochi.jp

東京オフィス

☎ 03-6206-1707

【開設時間】10:00~18:00(平日)
東京都千代田区内幸町1-3-3 内幸町ダイビル8F



東京
窓口

セカンド
キャリアの
相談も
大歓迎!

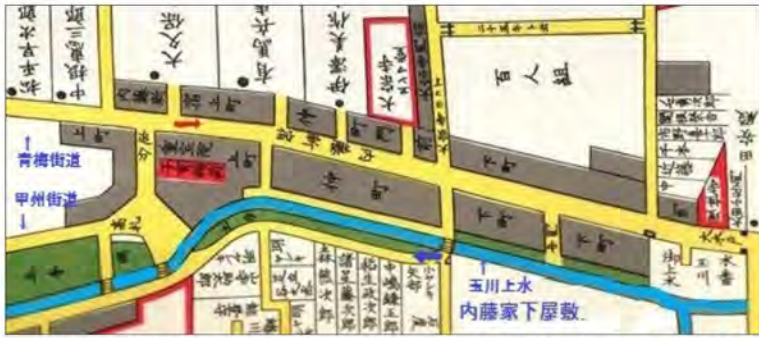
高知で働きたい!を
応援します。

「高知求人ネット」

高知求人ネット



WEB

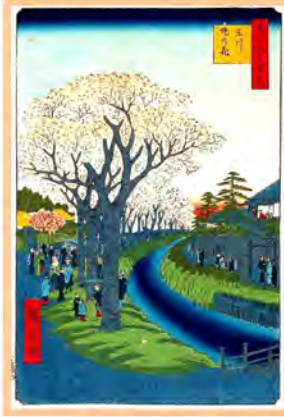


(上) 内藤新宿開站165年後の文久二年(1862)の江戸切絵図にある内藤新宿。東端に四谷大木戸がある。西端の方に「追分」とあり、ここから右が青梅街道、左が甲州街道と分かれています。追分は現在の伊勢丹本館のあたり。街道の両側に旅籠・他町家が並んでいる。その裏(南側)を流れているのは玉川上水(青色)である。

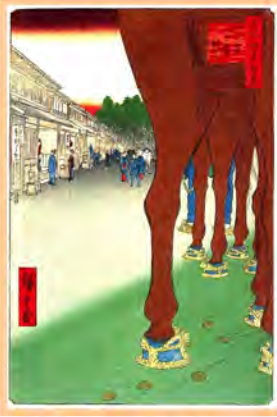
江戸時代中期以降「江戸四宿」と呼ばれる宿場があった。江戸の四街道それぞれ第一番目の宿場である。即ち、東海道品川の宿、中仙道板橋の宿、奥州街道(日光街道)千住の宿、甲州街道内藤新宿である。いずれも江戸日本橋より二里内外の距離にある。

この内、甲州街道の第一番目の宿場内藤新宿は、元禄十一年(一六九八)幕府の命で今の新宿の地に幅五間半(ほぼ10メートル)の街道を開き、江戸の有力町人に街道の左右に宿屋の家作をなさしめて宿場とした。その場所は信州高遠藩内藤家の下屋敷の土地の一部であったので、宿場の名も「内藤新宿」と名付けた。

内藤家の下屋敷の土地は元は全部で二十五万坪もあった。



(上) 歌川広重「名所江戸百景」より『玉川堤の花』。内藤新宿の街道沿いに並ぶ旅籠の裏(南側)を流れる玉川上水と堤の桜並木。花は満開で花見の客が出ている。旅籠の二階で遊女も花見をしている。上地図の青い矢印の方向を描いたもの。



(上) 歌川広重「名所江戸百景」(安政1854~60頃)より『四ツ谷内藤新宿』。宿次馬の尻と馬糞の転がっている街道と旅籠が描かれている。上地図の赤い矢印の方向を描いたもの。「江戸百」の内の傑作の一つである。

元禄十年(一六九七)と十一年の二回に渡り、幕府は、宿場建設用地として、内藤家の土地を約八万坪、上地(あげち)土地を幕府に返すこと)させた。そこに浅草の有力町人が家作して、移り住んで、内藤新宿という宿場を開站(かいたん)したのである。

四谷大木戸を出るとそこがもう内藤新宿であり、後には江戸市民は一緒にたにして「四谷新宿」と呼んでいた。

〈宿場と飯盛女〉

さて、江戸時代の大きな宿場は全てそうであったが、宿場全体が旅人相手の一種色町をなしていた。隠れ遊女がいたのである。江戸で公許の遊郭は新吉原のみで、他の場所には遊女を置くことは禁止されていた。しかし、実質はそれが守られていなかったことは歴史が示している。幕府は、時には取締りをやったが、多くは黙認した。この宿場女郎というものは旅籠(はたご)が抱えており、当局を憚って表向き遊女とは呼ばず、飯盛女(めしもりおんな)または食売女(めしうりおんな)と呼んでいた。江戸四宿は、旅人相手だけでなく、江戸に近場所になつていって、いわゆる岡場所というものである。

宿場に客を呼び寄せ繁盛させるのは、色を売るのが、当時は一番手取りが早い方策であった。まして江戸に



(上) 四谷大木戸(江戸名所図会より)。石垣の大木戸より右(東)が江戸、左(西)が内藤新宿である。手前の屋根は玉川上水の水番所。

(右) 上記右図と同じ場所から筆者撮影。馬に代わり、現在は自動車と排気ガスである。



近ければなおさらである。内藤新宿も例外ではなく、当初旅籠屋の数は二十軒だったと言われているが、二十年後には総勢百五十軒の飯盛女を抱えて、五十三軒の旅籠屋を軒を連ねていた。江戸時代中期以後の新宿では、大いに宿場女郎がはやって、三田村鳶魚による江戸の都会化政策のたゆみ江戸の景気が良くなり、内藤新宿もその余慶を受けたのだという。

そうして安永・天明・寛政(一七七二~一八〇一)と新宿は繁盛を続け、文化・文政期(一八〇四~一八三〇)に江戸と同じく最も景気が良くなる。新宿の飯盛女もなかなか綺麗どころがいたし、吉原に引けを取らぬ立派な遊女屋(旅籠)も建設されていった。客層もピンからキリまであった。洒落たのが江戸から遊びに来たりするが、思えば、キリの方では、仕事一段落つた馬子(まこ)なども多かった。

た。品川は海辺であり、キリの多かつた。江戸の職業と言え、船頭、馬子、駕籠かきといふあたりである。この頃の女小咄に、新宿の女郎が一品川は下品だ、船頭が相手だ、の、という馬子ど、ん、というオチがつくのがあった。

〈新宿の馬糞(まぐそ)〉

この時分にできた唄に「四谷新宿馬糞(まぐそ)の中で、あやめ咲くとはしおらしや」というのがある。「あやめ」とは宿場女郎の綺麗どころのたとえである。宿場、内藤新宿の幅五間半の街道は、宿次の馬の往来が多く、従って馬糞が多くて、内藤新宿の馬糞と言えは江戸市内まで知れ渡った有名な馬糞であった。

〈新宿の駕籠かき〉

四谷大木戸の西側(内藤新宿側)の両側に駕籠屋があった。この二軒は夜通し焚火をして表戸を開け放しにして、いつでも客の用に立つようしていた。この大木戸(内藤新宿)の駕籠かきは江戸一の健脚で有名であった。江戸市内下町の駕籠は、早いが長距離は走らない。これに対して大木戸から乗って江戸へ出る駕籠は一里半(約6キロメートル)から二里を平気で走つてくる。しかも江戸市内で下町の駕籠を追い抜いてゆく。乗っている客は喜んで、一挺抜けばいくら、と祝儀をはずんだ。そのため、江戸の駕籠は大木戸の駕籠を見ると、横町へ隠れたさうである。その代わり大木戸の駕籠屋から乗り出す客は覚悟が要つた。駕籠かきは中の客が身体がぶらつくような乗り方をされては、駆けられるものではない。客を乗せ、担ぎ上げて、腰を切るとすぐに、「旦那の『乗り前』ではかけません、下り客も大変であった。」

母校だより 校長 小村 彰

コロナ禍三年目、終わりのないトンネルの中で、かすかな灯りが見えては消えを繰り返しています。一度に三〇人を超える抗原検査を実施するという保健所のような仕事もあり、対応する教員には疲労も蓄積していますが、生徒たちはマスクを離さず、頑張ってくれています。そんな学校の近況をお伝えします。

※大学入試く九七回生がんばる
今春卒業した九七回生は、大学入試で立派な成績を残してくれました。概要は表の通りです。

2022年度	本年度	過去5年平均
現役合格率	87.3	69.5
国公立現役合格数	150	124
難関十大学合格数	44	43.8
国公立医学部医学科	33	30.6
〃現役合格数	22	15.6
東京大学	7	4.2
京都大学	4	6.8

が、東大京大を初めとする難関大、医学部医学科への合格数も一定水準を保ち、高知県では他を圧倒しています。中でも、東大・京大には高知県で本校以外には合格者が出ていません。ただ、これは他の県も含め、地方の高校からの合格者が減っている中で、本校が辛うじて踏みとどまっているという面もあり、本校のこれまでの実績からすれば、平均的なものと考えています。ただ、現役の国公立合格者が一五〇名、現役の合格率が八七・三％と、いずれも過去最高を記録しているのは、大いにたたえられるべき数字だと思います。その中には、高校からの入学生（最近ではNPと呼んでいます）で、学校の寮（向陽寮）で生活を送りながら陸上競技部でがんばり、塾にも行かず一橋大に合格、入学式で新生代表として誓詞朗読を行った生徒もいます。九七回生のがんばりに大きな拍手を送るとともにさらなる飛躍を期待したいと思えます。



※高校県体……九八〜一〇〇回生がんばる (写真は優勝団体)



正直なところ、私は、最低二種目、よければ四種目、五種目は無理かなあと、団体の優勝予想をしていました。ふたをあけると、大本命の登山・女子ハンドに加え、男子バド・男子テニス・女子弓道が優勝。無理と思っていた五種目で団体優勝。自転車競技の

学校対抗も含めれば、六種目制覇となりました。中には、優勝候補と目されながら敗れた種目もありましたが、全体としては大健闘。個人種目でも、陸上競技男子、バドミントン男子、ライフル射撃女子、自転車(三種目)で優勝。個人で準優勝の種目も含め、四国で開催される今年のインターハイに、たくさん生徒が出場し、高いレベルを体感することになります。

※東京総文……文化部もがんばる
文化部のインターハイと呼ばれる高校総合文化祭が今年も開催されます。この東京総文にも、本校から多数の文化部が参加します。他校と合同参加の吹奏楽・合唱の他、弦楽、棋道(囲碁・将棋)、かた、放送、軽音楽、美術、文芸の各部です。とくに、美術部門に参加する生徒は、作品が県の美術展で上位入賞したのですが、登山部員でもあり、県体で優勝し、登山ではインターハイにも出場します。運動部・文化部両方のインターハイに参加するという大きな栄誉を勝ち取りました。東京での開催ですので、関東支部の皆さまも会場に足を運び、生徒の作品や演奏を見ていただければ幸いです。

※学校行事……悩みつつすこずつ
コロナ禍で学校行事も中止や規模縮小を余儀なくされてきました。しかし、生徒たちには一生に一度の経験。卒業生の皆さんの中にも、中・高時代の思い出として残っているのは学校行事のことが多いのではないのでしょうか？ 仲間とともに何かを成し遂げる、貴重な機会である行事をこの状況の中でも少しでも実施したいと考えています。現在のところ、毎年十一月に実施している高一の修学旅行(東京中心)、二月の中二のスキー研修(越後湯沢)は、予定通り実施の方向。昨年修学旅行を中止にした現高二は十月に行く先を変更しての修学旅行、同じくスキー研修を中止にした現中三は同じ場所でスキー研修を二月末に実施すべく計画中です。なんとか実施できることを祈っています。

このような生徒の活動に、卒業生の皆さんが新世紀募金などでご支援いただいていることに、心から感謝申し上げます。今後ともよろしく願っています。

(二〇二二年六月一六日記)



囲碁将棋同好会

王将

コロナ禍でしばらく中断していた囲碁同好会を、今般、「囲碁将棋同好会」に名称変更し新たに将棋も行うことで再開することになりました。

午後2時ごろ開始し、5時ごろには気楽なレストランでの懇親会を行います（同好会・懇親会いずれかの出席も歓迎）。私見で恐縮ですが、囲碁・将棋は日ごろ使っている脳とは異なる部分を使うことで、脳の活性化あるいはストレス解消に絶大な効果があります。特に、現役を引退された方々は退職したらやろうと思っていたいろいろなことがあると思いますが、その一つに囲碁将棋を加えるのはいかがでしょうか？ 迫力ある老化防止対策あるいは若返り対策になるでしょうし、月に一度の土佐校OB・OGとの交流・懇親も逃せない魅力の一つです。

人生を楽しみましょう。片岡方和（40回）
連絡先：前田憲一（37回）（kmaeda@s4.dion.ne.jp）
大町正人（38回）（m-omachi@msd.biglobe.ne.jp）



土佐ハイクの会 出羽三山へのバス旅

第24回目土佐ハイクの会のご案内です。

3年ぶりのハイクに選んだのは出羽三山。

東北屈指のパワースポットとして知られる

出羽三山巡りは「生まれ変わりの旅」と伝えられています。弥陀ヶ原湿原の散策では高原植物を楽しみ、また月山への登山も魅力的です。

コロナ禍で運動不足の方も、バス旅でのハイキングを楽しみましょう。ご家族・お友達をお誘いあわせの上、9月3日、4日ご参加をお待ちしています。

詳しくはお知らせパンフレットをご覧ください



日頃から同窓会関東支部の活動へのご理解とご協力をいただきましてありがとうございます。各種同窓会活動が活動を再開いたしました。皆様のご参加をお待ちしております。

筆山会昼食会



約50年前に先輩方数人で始まったこの昼食会。新年会、お盆休みとか支部総会のある月を除き、原則毎月第3木曜日12時、ホテルニューオータニのレストランに集まり、土佐弁を交え親睦を深める楽しい会が続いています。時にはテーマを絞った講和等もあり、母校の話になると俄然熱気を帯びます。それだけみんな母校が好きなんだ。

参加する同窓生も幅広くなり、年長者が23回生、最年少が83回生です。参加してみたいと思われる方は、昼食会の案内希望として是非下記にメール



をお送り下さい。
次回よりメールにてご案内いたします。勿論出欠はご自由です。
（写真は2年ぶりに再会4月の昼食会）

ヒロコ
会長 佐々木泰子（33回）
hiro-art-keitai@docomo.ne.jp
世話役 前田憲一（37回） kmaeda@s4.dion.ne.jp

来春NHK朝ドラ モデルに牧野富太郎

連続テレビ小説第108作は、春らんまんの明治の世を天真らんまんに駆け抜けた一天才植物学者の牧野富太郎がモデルの物語『らんまん』と決まりました。

高知では、前号で紹介した『五台山の牧野植物園』を始め、出身地の佐川など、牧野富三郎ゆかりの地や植物が注目されています。今から放送が楽しみです。

練馬区東大泉には、亡くなるまでの30余年を過ごした東京都指定文化財の『牧野記念庭園記念館』（大泉学園駅南口より徒歩5分）があります。園内には、300種以上の植物と書屋が博士の在りし日の面影を今に伝えています。牧野富太郎ゆかりの地を訪ねてみてはいかがでしょうか。



富太郎の胸像。奥様の名を付けた笹の中世の中のあらむかぎりやすゑ子笹 富太郎

総会同窓会開催

10月29日(土)

「シン！同窓会」開催します！

さまざまな制限が緩やかになり、少しずつ日常が戻ってきています。関東支部の年中行事である同窓会は、過去2年間、前例のない難しい状況での開催を余儀なくされました。それでも工夫を凝らしタスキを繋いでくださった0の会、1の会の皆様には、頭が下がる思いです。今年と同窓会は10月29日(土)。ぜひ手帳にメモをお願いいたします！

1の会の皆様から引き継ぎを受けた後、私たち2の会幹事にはいくつかの大きな議題がありました。ひとつ目は、「どのように開催するか」です。先行きが読めない環境の中で、何をどこまで今から決められるのか。頭で考え始めると、課題は山のようにある気がします。しかし当初から心はひとつでした。私たちは「会いたい」のです。「2022年は対面とリモートを両方やる！」と決めるまでに、さほど時間はかかりませんでした。ご参加の皆様は安心・安全に配慮して実施します。ほかに大きな検討事項がありました。これまでに長きにわたりお世話になった東海大学交友会館は、2020年に惜しまれながら閉館となりました。そのため、私たちの同窓会を受け入れて

くれる会場探しをしなければなりません。総会、講演会、懇親会を同じ会場で実施するという「私たちの当たり前」を、予算内で実現することの難しさに直面しました。幹事で手分けして都内の会場を調べ、見積もりを取ったり内見に行ったりと奔走しました。その結果今年も、大手町駅直結の「大手町プレイスカンファレンスセンター」にて開催することができそうです。

久しぶりの対面での同窓会ですから、内容にもこだわっています。講演会は思いきり欲張って、小島英揮さん(62回)、田島智之さん(72回)、森新さん(82回)と、三世代の同窓生にお願ひしました。「シン！同窓会」にふさわしい新しい時代のキャリア形成の最先端をいく方々です。ぜひ、インターネットでお名前を検索してみてください。

そして、懇親会は多くの皆様が楽しみにされているコンテンツ。今年はお9の会の交流を深める「縦のつながり」や、同級生同士が旧交を温める「横のつながり」に加え、多世代交流を楽しめる「ナナメのつながり」も作られたらと考えています。この会幹事には、32から82回生まで幅広い世代のメンバーがいます。しかし、最若手の92回生は不在。それでもめげずに、銀座のまるごと高知2階「おきやく」でアルバイトをしている土佐高卒業生にヒアリングをして、全世代が楽しめる懇親会を企画しています。ちなみに、大

学生の関心事はやはり就職活動。土佐高には幅広い業界で活躍されている同窓生がいっぱいいるので、懇親会でつなげる場を作れたらと考えています。「会つ」同窓会の魅力を中心軸としているので、リモート配信では「来年はぜひ会場で会いたい」と思っていただけの内容を模索しています。

2の会幹事の打ち合わせはズームで行っています。特徴的なのはその時間帯。72・82回生が働き盛りの子育て世代ということにご配慮いただき、32回生の大先輩も含めた2の会幹事一同、週末の朝7時から集まって企画を進めています(いわゆる朝活)。こんなところにも新しい時代を感じています。

2の会一同



海外留学奨学金基金の創設のお知らせ

一土佐高OBOGの若者へ

関東支部幹事長 市川直介

「人として生まれたからには、太平洋のように、でっかい夢を持つべきだ」と名言を残した坂本龍馬。若い龍馬も更なる夢の実現のため海外渡航に憧れたが残念ながら実現できなかった。しかし、関東在住の土佐高卒業生の若者には、是非海外の文化や最新の技術等を体験して欲しいと、池田勲夫氏を中心に中島宏氏や高田谷洋氏等の38回生有志が議論を重ね、海外留学奨学金基金を創設しました。基金の案内チラシや関東支部同窓会のHPを参照して、是非応募してください。

38 池田勲夫
土佐中高同窓会関東支部基金

38回生有志による基金創設により、同窓会関東支部に奨学金制度を創設
同窓会関東支部の若手会員を支援

- 同窓会関東支部に所属する若手会員を対象
- 経済不況の給付奨学金
- 海外留学などの海外プログラムを対象

選考基準

- 海外への積極な好奇心を有する者
- 夢や目標のある者
- 母校や同窓会に対する思いのある者
- 必ず土佐高の名に誇りを持つ者

詳細は土佐中・高卒業生の会報奨学金部ホームページに掲載
www.taksho-hakko.org

出版レーダー



公文俊平 (28回生)

『ワイズ ガバメント：日本の政治過程と行財政システム』
中央経済社 2021/10
『応用情報社会学：発展途上国における情報社会構築の指南書』
NextPublishing Authors Press 2021/11



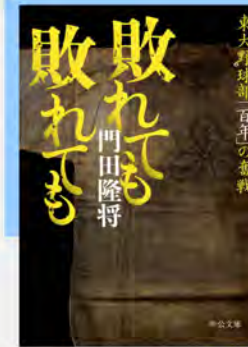
門脇護 (53回生) / 門田隆将

『世界を震撼させた日本人：心を奮い立たせる日本の偉人』
SBクリエイティブ 2022/2



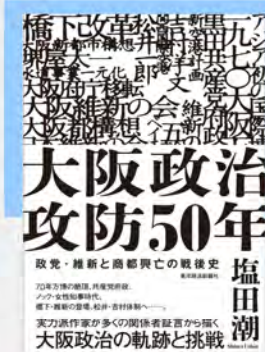
田島征三 (34回生)

『た』
佼成出版社 2022/4



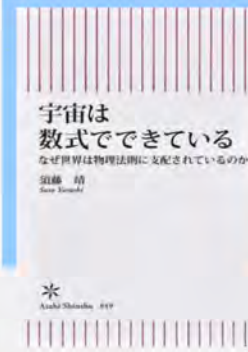
門脇護 (53回生) / 門田隆将

『敗れども 敗れども』
-東大野球部「百年」の奮戦
中央公論新社 2022.5



塩田潮 (40回生)

『大阪政治攻防50年：政党・維新と商都興亡の戦後史』
東洋経済新報社 2022/5



須藤靖 (52回生)

『宇宙は数式でできている』
なぜ世界は物理法則に支配されているのか
朝日新聞出版 2022/1



村木厚子 (49回生)

『高校生と考える新時代の争点21 (桐光学園大学訪問授業)』
左右社 2022/3



森岡正博 (52回生)

『人生相談を哲学する』
生きのびるブックス 2022/2
『スポーツと遺伝子ドーピングを問う：技術の現在から倫理的問題まで』
晃洋書房 2022/1

私の一冊

久松由理 (61回生)

「国語の成績は観察力で必ず伸びる」

かんき出版

筆者が主宰する国語塾の実践的なトレーニング方法が紹介されています。国語が苦手な子のタイプを、①飛ばし読み②主観読み③文字通り読み の3タイプに分けて、鍛えた「観察力」に解決策を見出していきます。そうして習得した国語力はテスト対策にすることだけが目的ではありません。「受験のためのツール」ではなく「生きるためのツールとして国語を子どもに身に付けさせたい」という筆者の思いは読み進めるほどひしひしと伝わってきました。 遠藤瑞枝(67回生)

